

頭部打撲！病院から帰ってきてもご注意を

葛城病院 脳神経外科部長 樹山三毅

初診の御年輩の方に「これまで頭なんかを打ったことがないのですが、心配で来ました」と、おっしゃられる方がおられます。人間も50年も生きていれば、本当はどこかの場面で頭部を打っているはずですが、それでも受診されないよりは安全です。

病院に歩いて受診される患者さんでは、頭部CTで問題がなければ帰宅となることが普通です(通常の頭部打撲ではMRIよりもCTが重要です)。しかし以下の注意は必要です。まず「むち打ち症(頸部捻挫)」です。交通事故で起こるだけでなく、頭部を打撲したときも頸部に屈曲などの外力や衝撃が伝わり、頸部の軟帯や関節包、筋肉などの障害を起こします。強いむち打ち症ではない限り、受傷直後には症状がなく、遅れて48時間以内に症状が出てきます。また、頭部・上背部・肩の筋肉の痛みやこり、頭痛、耳鳴、めまい、ふらつき、嘔気、食欲不振などです。あくまで頸部の捻挫なので、受傷から48時間程度の間は頸部をあまり動かさないことが最も重要です。もし何らかの症状が出るなら受傷後の2週間程度は頸部をあまり動かさず、あんま・マッサージや鍼灸、頸

椎牽引などは控える方が良いでしょう。もしも状態が持続するようなら病院受診が必要です。

受傷直後から頭痛や嘔気、めまい、ふらつき、情報処理速度や注意力・集中力の低下、記憶障害、疲労感、睡眠障害などが持続する場合も要注意です。これは「脳しんとう」の症状かも知れません。

脳しんとうだけでは通常、画像検査にも異常は認められないことが多いですが、安静、対症療法が治療の原則です。脳しんとうは一度起こそと2度目の頭部打撲でも脳しんとうになる危険性が上昇します。

また脳しんとうの症状が残っている状態で再度頭部に衝撃を受けた場合は、重篤な状態に陥ったり深刻な後遺症が残る場合もあるのでさらに要注意です。

受傷の数週間から数ヶ月後になって発症する疾患に「慢性硬膜下血腫」と「外傷性水頭症」があります。頭蓋骨と脳の間へ徐々に溜まつてくる場合が水頭症です。慢性硬膜下血腫は、高齢者やアルコール常飲者、抗血栓薬を服用中の方に起こりやすく、徐々に出現し進行する頭痛あるい

は半身麻痺や認知症、意識状態の低下がその症状です。症状があり画像検査上で慢性硬膜下血腫があれば、手術を要することも多いです。

がりやすいですが、歩行障害、認知症、尿失禁などの症状が数カ月間程度の間に徐々に出現し進行します。脳の画像検査では、脳室の拡大などが起こってきます。水頭症も手術を要することがしばしばあります。

打撲部に限局した痛みとたんこぶ程度のみの症状であれば、自宅での経過観察でも良いですが、それ以上の症状や創傷が存在するとときは病院受診が必要です。特に創傷がある場合は、受傷から6時間を超えて、縫合処置が出来ない場合が多く、創傷があれば、その他の症状が軽微であっても受傷6時間以内に病院受診をする方が良い

以上のように頭部を打撲した場合や病院受診をしてから後も48時間程度の頸部の安静とその後の症状の推移にはご注意下さい。



医療法人大植会 葛城病院

TEL.072-422-9909代 岸和田市土生町2-33-1

【外来診療時間】9:00~11:30/13:00~16:00/17:00~19:00 ※科目により時間が異なります

【診療科目】
●内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・外科・心臓血管外科・消化器外科・肛門外科・整形外科
●脳神経外科・形成外科・リウマチ科・皮膚科・泌尿器科・眼科・リハビリテーション科・放射線科

【センター】
●下肢静脈瘤治療センター・健診センター・人工関節センター・脊椎外科センター

市民健康講座

入場無料

「脳神経外科シリーズ」を開講します

時間…各日 14:30~16:00

●第46回 頭部外傷について
11月24日(土) 脳神経外科 樹山三毅

●第47回 当科で処方するお薬の話
12月22日(土) 脳神経外科 児玉隆浩

★介護相談コーナー

各回終了後にケアマネジャーが無料で相談をお受けします。ご自身の身の回りや、ご家族の介護などで心配事はありませんか?

場所: 葛城病院 2階研修室

お申込み・お問合せは、地域医療連携室まで